

新型ランセットによる出血時間測定を試み

友利 朝海, 河南 亜希子, 中田 千亜紀, 西平 大二郎 (大阪医療技術学園専門学校)
倉本 智津子, 丹羽 欣正, 増谷 喬之, 岡本 康幸 (奈良県立医科大学附属病院)

【はじめに】

出血時間は、皮膚に切創を作って出る血液が止血するまでの時間を測定する検査である。一次止血を反映し、血小板の量的、質的異常によって延長する。方法としてDuke法、Ivy法、Template Ivy法、Simplat法などがあるが、日本で広く用いられているのはDuke法である。Duke法は操作が簡単で傷跡が残らないが、手技により切創が一定になりにくい事などから再現性に問題があると考えられている。そこで、Duke法による出血時間の測定の精度をできるだけ高めるための検討を行った。

【方法・対象】

Duke法に準じた。Duke法は耳朶に切創を作り30秒ごとに濾紙に湧出する血液を吸い取り、濾紙につく血液斑の径が1mm以下になるまでの時間を記録した。今回健常人68名を対象に、従来のランセット(FEATHER社)とBD社ジニーランセット(以下新ランセット)を使用し比較検討した。検討1 穿刺部位

検討2 新ランセットと従来のランセットとの比較
検討3 切創の深さによる出血時間の比較
検討4 被検者からの聴取による各種ランセットにおける痛みの比較。

【結果】

結果1 耳朶中心部で出血量の個体差が少なかった
結果2 従来のランセットは穿刺直後出血しない例が12例認められた。新ランセットの方は切創が安定していた。
結果3 最も信頼性の高い結果が得られたのは切創の深さ2.0mmの新ランセットであった。
結果4 2.0mm新ランセットはほとんどが痛みを感じず、従来ランセットはほとんどが最大の痛みを感じた。

【結語】

新ランセットによるDuke法の実施は、被検者の負担軽減、結果にある程度の信頼性が認められた事等から日常検査での使用において有用であると考えられた。

0744 22 3051 内線 4204